

<総合政策学科> (認定課程: 中学校1種(社会))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1セメスター	<p>1セメスターは、共通科目および学部固有科目のうち基礎・実践・基幹科目の履修を通じ、今日的な問題を多面的に捉え、状況に応じて合理的な根拠に基づき判断できるように、専門領域(政治学・法学・経済学・経営学)における学術的力量を鍛えることを目標とする。</p> <p>「教科科目」に関しては、地理的分野に関する科目区分「地理学(地誌を含む)」として「人文地理学」を開講し、日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察・理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養成するために必要な知識を身につけさせる。公民的分野に関する科目区分「法学、政治学」として「政治学概論」を開講し、現代政治を理解する基礎用語、基礎的事項、主要な項目についての概要や意義などの基礎知識を修得させる。「社会学、経済学」として「経済学概論」を開講し、現在社会の諸問題を経済学の基礎理論の学びを通して多面的・多角的・論理的に考察したり、解決に向けて論理的に思考したりする力を養わせる。「哲学、倫理学、宗教学」として「倫理学」「哲学」を開講する。「倫理学」で多様な思考法を学び、多様な観点から論理的に議論を構築できるようにし、自身の考え方を科学的・論理的に表現できるようにする。さらに「哲学」では課題に皆で向き合いながら、対話を通して論理的に問題解決する力を養わせる。以上から個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識できる基礎を身につけさせる。</p>
	2セメスター	<p>2セメスターは、共通科目および学部固有科目のうち基礎・実践・基幹科目の履修を通じ、今日的な問題を多面的に捉え、状況に応じて合理的な根拠に基づき判断するための学術的力量を鍛えることを目標とする。</p> <p>「教科科目」について、地理的分野に関する科目区分「地理学(地誌を含む)」として「地域らしさの探求」を開講し、環境を考えるための地誌の内容や多様な地図表現を手書きやパソコンを使用した作図を通して学ばせ、防災教育、環境教育のあり方を考えられるようにする。公民的分野に関する科目区分「法学、政治学」として「法学概論」を開講し、「法学概論」を開講し、日本の法体系や解釈の方法を理解し、現在社会の諸問題を諸資料から理解する技能を身につけさせる。「社会学、経済学」として「マクロ経済学」を開講し、国や地域の経済状況を資料より評価し、財政・金融政策の国や地域に及ぼす効果を理解し、政策づくりの基礎となる理論と政策評価を学ばせる。「哲学、倫理学、宗教学」として「自由と正義の倫理学」「経営と技術の哲学」を開講する。「自由と正義の倫理学」では人間の生命に即して自由と正義をめぐるさまざまな倫理的問題を学ばせ、論理的に議論できる力を養わせる。「科学と技術の哲学」で科学の方法論・特徴を学ばせ、「科学とは何か」について自ら考えられるようにする。</p>
2年次	3セメスター	<p>3セメスターは学部固有科目の履修を通じ、他者と交流できるコミュニケーション能力、および、国際化にも対応したコミュニケーション能力を身につけ、学校という組織の一員として必要な対人関係能力や役割意識を備え、集団や組織を運営するためのリーダーシップやチームワークに基づくマネジメント能力を身につけることを目標とする。特に3セメスターから開講される「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」は3セメスターより開講する。「教育原論」では教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を学ばせ、現在の学校教育のあり方を自身の課題として追及するための資質を形成させる。「教職入門」では教職の意義および教員の役割、教員の職務内容、教職への道を理解させ、教職を受講者自身の進路として真摯に捉えさせ、彼らの将来設計の重要な契機とさせる。</p> <p>「教科科目」に関しては、地理的分野に関する科目区分「地理学(地誌を含む)」として「地誌A」を開講し、日本や世界の地域の諸事象を地理的位置や空間的な広がりとのかかわりでもとらえ、地域の規模・環境条件・人間の営みなどと関連付けて考察できる基礎知識を修得させる。歴史的分野に関する科目区分「日本史・外国史」としては「歴史Ⅱ」「現代日本政治外交史」を開講する。「歴史Ⅱ」では、断片的だった知識を再構築して各国別の通史やテーマ別の歴史を学ばせる。「現代日本政治外交史」では、近代日本及び海外の政治指導者・軍事指導者が直面した政治的・軍事的課題に対する決断と結果を多面的に学ばせる。公民的分野に関する科目区分「法学、政治学」として「行政学」「行政法」を開講し、民主政治の意義や個人と社会とのかかわりについて理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考える態度を身につけるための基礎知識を修得させる。「社会学、経済学」として「ミクロ経済学」を開講し、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などへの理解を深めて社会への関心を高めさせる。加えて様々な資料を収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てるのに必要な経済学上の知識を養わせる。</p>
	4セメスター	<p>4セメスターは、学部固有科目の履修を通じ、他者と交流できるコミュニケーション能力、および、国際化にも対応したコミュニケーション能力を身につけ、学校という組織の一員として必要な対人関係能力や役割意識を備え、集団や組織を運営するためのリーダーシップやチームワークに基づくマネジメント能力を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関して、「学習・発達論」、「教育課程論」及び「教育の制度と経営」を開講する。「学習・発達論」では、乳幼児期から青年期における発達や学習の基礎知識について心理学の観点から学ばせ、教育的意義や教育者としてより良い教育実践を行うための見方や考え方を理解させる。「教育課程論」では、教育課程の「本質」を理解させ、模範的な教育課程の編成を通して、有意義な教育課程の編成技能を養わせる。「教育の制度と経営」では、日本の教育行政、学制、教育課程、教職などを歴史的な形成過程や海外との比較を交えて理解させる。併せて日本の教育制度の運用を理解させる。</p> <p>「教科科目」に関しては、地理的分野に関する科目区分「地理学(地誌を含む)」として「地誌B」を開講し、「地誌A」に続けて日本や世界の地域の諸事象を地理的位置や空間的な広がりとのかかわりでもとらえ、地域の規模・環境条件・人間の営みなどと関連付けて考察できる基礎知識を修得させる。歴史的分野に関する科目区分「日本史・外国史」として「歴史Ⅰ」を開講し、古代から現代までの日本社会の歴史を各時代の特色を踏まえて理解できる知識を修得させる。</p>

履修年次		到達目標
年次	時期	
3年次	5セメスター	<p>5セメスターは、学部固有科目の履修を通じ、主体的に問題を発見・整理した上で、適切な解決策を提案する能力を身につけることを目標とする。特に、3セメスターより継続して開講される「総合政策プロジェクト研究」や「社会人基礎力講座」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」に関しては、「教育方法論」、「情報通信技術の活用」及び「特別支援教育」を開講する。「教育方法論」では、知識を伝達する教育の方法と技術を歴史や背景および機能や役割を踏まえて学ばせる。「情報通信技術の活用」では、必要な教育情報機器及び教材の活用を修得させる。「特別支援教育」では、特別支援教育の歴史と現状並びに障害者に対する社会の意識の変化について学ばせる。多様化し重度化する障害のある幼児・児童・生徒の実態と、特別支援教育が個別のニーズに対応する教育形態と概念であることを理解させ、障害者も健常者も共に同時代を生きる「人」としての共感的な理解を学ばせる。通年の各教科の指導法に関する科目（「社会科教育法」「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」）では、教科の教育課程と特性に応じた実際の授業づくりにかかわる実践的な学修を行う。学習指導案の意義と作成の仕方、それを基にした模擬授業とその内容の相互批評などを通して、授業準備の基本と実践的な指導力の基礎を身につけさせる。また、その際、学習指導要領の理解を深めることで暗記科目との誤解を解き、学習指導要領に定める教科の達成目標を個別授業の目標のうちに具体化する必要について、特に意識付ける。</p> <p>「教科科目」に関しては、地理的分野に関する科目区分「地理学(地誌を含む)」として「自然地理学A」を開講する。「自然地理学A」では、身の回りで体験する「気候」、「自然景観」、「自然災害」の特徴や機構を理解し、日本列島における自然と人間との関わりを多方面の調査や情報収集を通して俯瞰的に捉えて全体を理解できるようにさせる。さまざまな写真、地形図、地質図などを読み解き活用する能力を修得させる。</p>
	6セメスター	<p>6セメスターは、学部固有科目の履修を通じ、主体的に問題を発見・整理した上で、適切な解決策を提案する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関して「教育相談(カウンセリングを含む)」、「総合的な学習時間の指導法」及び「特別活動の方法」を開講する。「教育相談(カウンセリングを含む)」では、カウンセリングの理解と併せて教育相談の実態と方法を学ばせ、多様な問題を抱える現代の児童・生徒の実態を理解させ、問題に応じてどのような対応の選択肢があるのかを学修させる。「総合的な学習の時間の指導」では、各教科を横断する総合的な学びや特別活動と結びついた体験的・探求的な学習の重要性を理解させる。「特別活動の方法」では、学校教育活動全体における特別活動の意義や内容及びその指導のあり方を理解させる。通年の各教科の指導法に関する科目では、5セメスターの内容を踏まえ、積極的に指導案づくりや模擬授業の機会を与えて、適切に授業目標を定め、授業設計ができるようにさせる。</p> <p>「教科科目」に関しては、地理的分野に関する科目区分「地理学(地誌を含む)」として「自然地理学B」を開講し、地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択・活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度の育成に必要な基礎知識を修得させる。</p>
4年次	7セメスター	<p>7セメスターは、教職課程を設置する学士課程の最終年次として、よりよい教育実践を実現するための向上心と、より高い自分自身を追究する自己研鑽への態度を身につけさせることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関しては、「生徒指導・進路指導の方法」で実践事例からいじめや荒れを認識させ、家庭及び発育の課題や現代社会の有り様を理解させる。その上で生徒理解に基づく進路指導及びキャリア形成のあり方を理解させる。「教育実習Ⅰ」では、十分な事前指導の下に教育現場で授業実践の基本的力量を身に付けるとともに、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解させ、教職への意欲を確実に持たせる。</p>
	8セメスター	<p>8セメスターは、7セメスターに続き、教職課程を設置する学士課程の最終年次として、よりよい教育実践を実現するための向上心と、より高い自分自身を追究する自己研鑽への態度を身につけさせることを目標とする。</p> <p>「教職専門科目」に関しては、「教育実習Ⅰ」において7セメスターに続き十分な事前指導の後に教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身につけるとともに、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解し、教職への意欲を確実に持たせる。「教職実践演習(中・高)」では、教師への旅立ちの確実な準備の機会として、履修生各自にこれまでの学修内容を振り返らせ、不足している側面を補い、学修成果を実践と結びつける演習的活動を通して、実践的指導力の基礎を固めさせる。</p>

<総合政策学科>(認定課程：高等学校1種(地理歴史))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1セメスター	<p>1セメスターは、共通科目および学部固有科目のうち基礎・実践基幹科目の履修を通じ、今日的な問題を多面的に捉え、状況に応じて合理的な根拠に基づいて判断できるように、専門領域(政治学、法律学、経済学、経営学)の学術的力量を鍛えることを目標とする。</p> <p>「教科科目」に関して、「人文地理学・自然地理学」として「人文地理学」を開講し、日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察・理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識の養成に必要な知識を身につけさせる。</p>
	2セメスター	<p>2セメスターは、共通科目および学部固有科目のうち基礎・実践・基幹科目の履修を通じ、今日的な問題を多面的に捉え、状況に応じて合理的な根拠に基づいた判断ができるように、専門領域(政治学、法律学、経済学、経営学)の学術的力量を鍛えることを目標とする。</p> <p>「教科科目」に関して、「人文地理学・自然地理学」として「地域らしさの探求」を開講し、環境を考えるための地誌的内容や多様な地図表現を手書きやパソコンを使用した作図を通して学ばせ、防災教育、環境教育のあり方を考えられるようにする。</p>
2年次	3セメスター	<p>3セメスターは、学部固有科目の履修を通じ、他者と交流できるコミュニケーション能力、および国際化にも対応したコミュニケーション能力を身につけ、学校という組織の一員として必要な関係能力や役割意識を備え、集団や組織を運営するためのリーダーシップやチームワークに基づくマネジメント能力を身につけることを目標としている。特に、3セメスターから開講される「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」を3セメスターから開講する。「教育原論」では教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を学ばせ、現在の学校教育のあり方を自身の課題として追及するための資質を形成させる。「教職入門」では教職の意義および教員の役割、教員の職務内容、教職への道を理解させ、教職を受講者自身の進路として真摯に捉えさせ、彼らの将来設計の重要な契機とさせる。</p> <p>「教科科目」に関しては、「日本史」の科目区分として「現代日本政治外交史」「近代日本政治史」を、「外国史」の科目区分として「歴史Ⅱ」を開講し、歴史的事象への関心を高めさせ、我が国の歴史を考える上で必要となる世界の歴史に関する知識及び歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考えさせると共に、他民族の文化、歴史などにも関心を持たせ、国際協調の精神を養うために必要な知識を修得させる。さらに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能をも修得させる。「地誌」の科目区分として「地誌A」「地域政策論」「流通論」「国際マーケティング論」「地方自治論」を開講する。「地誌A」では、日本や世界の地域の諸事象を地理的位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、地域の規模・環境条件・人間の営みなどと関連付けて考察できる基礎知識を修得させる。「地域政策論」では、地域政策の評価体系を経済的な理論に基づいて学ばせ、地域政策を検討できるようにする。「流通論」では、流通・商業の存立根拠や背景の仕組みを学ばせ、流通業の行動原理を論理的に説明できるようにさせる。「国際マーケティング論」では、企業が国境を超え、文化・法制度の異なる地域で活動する意味を学ばせる。「地方自治論」では、日本の地方自治を生活感覚を踏まえて理解させる。</p>
	4セメスター	<p>4セメスターも学部固有科目の履修を通じ、他者と交流できるコミュニケーション能力、および国際化にも対応したコミュニケーション能力を身につけ、学校という組織の一員として必要な関係能力や役割意識を備え、集団や組織を運営するためのリーダーシップやチームワークに基づくマネジメント能力を身につけることを目標とする。特に「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」に関して、「学習・発達論」「教育課程論」及び「教育の制度と経営」を開講する。「学習・発達論」では、乳幼児期から青年期における発達や学習の基礎知識について心理学の観点から学ばせ、教育的意義や教育者としてより良い教育実践を行うための見方や考え方を理解させる。「教育課程論」では、教育課程の「本質」を理解させ、模擬的な教育課程の編成を通して、有意義な教育課程の編成技能を養わせる。「教育の制度と経営」では、日本の教育行政、学制、教育課程、教職などを歴史的な形成過程や海外との比較を交えて理解させる。併せて日本の教育制度の運用を理解させる。</p> <p>「教科科目」に関しては、「歴史Ⅰ」を開講する。「歴史Ⅰ」では、古代から現代までの日本社会の歴史を各時代の特色を理解させ、歴史的事象への関心を高めさせる。「地誌」の科目区分として「地誌B」「地方政治論」「地方自治法」を開講する。「地誌B」では、「地誌A」に続いて日本や世界の地域の諸事象を地理的位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、地域の規模・環境条件・人間の営みなどと関連付けて考察できる基礎知識を修得させる。「地方政治論」では、地方の政党・会派の動きに注目して地方政治の歴史、構造、特質などを多角的に学ばせる。「地方自治法」では、地方自治法の基本理念と他の法律との関係を理解させ、現代社会の問題を分析できるような知識を修得させる。</p>

履修年次		到達目標
年次	時期	
3年次	5セメスター	<p>5セメスターは学部固有科目の履修を通じ、主体的に問題を発見・整理した上で、適切な解決方法を提案する能力を身につけることを目標とする。特に「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」に関しては、「教育方法論」、「情報通信技術の活用」及び「特別支援教育」を開講する。「教育方法論」では、知識を伝達する教育の方法と技術を歴史や背景および機能や役割を踏まえて学ばせる。「情報通信技術の活用」では、必要な教育情報機器及び教材の活用を修得させる。「特別支援教育」では、特別支援教育の歴史と現状並びに障害者に対する社会の意識の変化について学ばせる。多様化し重度化する障害のある幼児・児童・生徒の実態と、特別支援教育が個別のニーズに対応する教育形態と概念であることを理解させ、障害者も健常者も共に同時代を生きる「人」としての共感的な理解を学ばせる。</p> <p>「教科科目」として、「自然地理学A」、「居住福祉と社会・生活」を開講する。「自然地理学A」において身の回りで体験する「気候」、「自然景観」、「自然災害」の特徴や機構を理解し、日本列島における自然と人間との関わりを多方面に調査し、情報を収集し、俯瞰的に捉えて全体を理解できるようにさせる。さまざまな写真、地形図、地質図の読み解き活用する能力を修得させる。「居住福祉と社会・生活」では、居住地域の「居住」を構成する要素を理解させ、それらの問題や課題を把握・分析できるようにさせる。</p>
	6セメスター	<p>6セメスターは学部固有科目の履修を通じ、主体的に問題を発見・整理した上で、適切な解決方法を提案する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関して「教育相談(カウンセリングを含む)」、「総合的な学習時間の指導法」及び「特別活動の方法」を開講する。「教育相談(カウンセリングを含む)」では、カウンセリング理解と併せて教育相談の実態と方法を学ばせ、多様な問題を抱える現代の児童・生徒の実態を理解させ、問題に応じてどのような対応の選択肢があるかを学修させる。「総合的な学習の時間の指導」では、各教科を横断する総合的な学びや特別活動と結びついた体験的・探求的な学習の重要性を理解させる。「特別活動の方法」では、学校教育活動全体における特別活動の意義や内容及びその指導のあり方を理解させる。通年の「社会・地理歴史科教育法」では、学校教育及び地理歴史科教育に関する基礎的な認識を獲得させ、地理歴史科の授業を計画・実践・評価する基本的な知識と能力を習得させる。</p> <p>「教科科目」に関しては、「自然地理学B」、「環境政策論」および「環境法」を開講する。「自然地理学B」では、現在の自然環境を理解するための基礎として、過去250万年間に起こった地形、気候、水文環境の変遷とそれが人類に及ぼした影響を中心に理解させる。「環境政策論」および「環境法」では、環境問題や地球環境問題を統計や様々な事実を踏まえつつ、国際環境法の視点など多様な観点で捉え、解決のための政策を考察できることを目指す。</p>
4年次	7セメスター	<p>7セメスターは教職課程を設置する学士課程の最終年度として、より良い教育実践を実現するための向上心と、より高い自分自身を追及する自己研鑽への態度を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関して、「生徒指導・進路指導の方法」で実践事例からいじめや荒れを認識させ、家庭及び発育の課題や現代社会の有り様を理解させる。その上で生徒理解に基づく進路指導及びキャリア形成のあり方を理解させる。「教育実習Ⅱ」では、十分な事前指導の下に教育現場で授業実践の基本的力量を身につけるとともに、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解させ、教職への意欲を確実に持たせる。</p>
	8セメスター	<p>8セメスターは教職課程を設置する学士課程の最終年度として、より良い教育実践を実現するための向上心と、より高い自分自身を追及する自己研鑽への態度を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関して、引き続き「教育実習Ⅱ」で十分な事前指導の下に教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身につけるとともに、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解し、教職への意欲を確実に持たせる。「教育実践演習(中・高)」では教師への確実な準備機会として履修生各自にこれまでの学修内容を振り返らせ、不足している側面を補い、学修成果を実践に結びつける演習活動を通して、実践的指導力の基礎を固めさせる。</p>

<総合政策学科>(認定課程: 高等学校1種(公民))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1セメスター	<p>1セメスターは、共通科目および学部固有科目のうち基礎・基幹科目の履修を通じ、今日的な問題を多面的に捉え、状況に応じて合理的な根拠に基づいて判断できるように、専門領域(政治学、法律学、経済学、経営学)の学術的力量を鍛えることを目標とする。</p> <p>「教科科目」に関して、「経済学概論」を開講し、現在社会の諸問題を経済学の基礎理論の学びを通して多面的・多角的・論理的に考察したり、解決に向けて論理的に思考したりする力を養わせる。「心理学」では、日常におけるヒトの行動を制御しているメカニズムを理解させる。「倫理学」では、多様な思考法を学び、多様な観点から論理的に議論を構築できるようにし、自身の考え方を科学的・論理的に表現できるようにする。さらに「哲学」では、課題に皆で向き合いながら対話を通して論理的に問題解決する力を養わせる。以上を通して、ヒトの行動メカニズムを踏まえながら、論理的に思考し、他人と協働しながら問題を解決する力を養わせる。</p>
	2セメスター	<p>2セメスターは、共通科目および学部固有科目のうち基礎・実践・基幹科目の履修を通じ、今日的な問題を多面的に捉え、状況に応じて合理的な根拠に基づいた判断ができるように、専門領域(政治学、法律学、経済学、経営学)の学術的力量を鍛えることを目標とする。</p> <p>「教科科目」に関しては、「法学概論」を開講し、日本の法体系や解釈の方法を理解し、現在社会の諸問題を諸資料から理解する技能を身につけさせる。「マクロ経済学」「経営学概論」「マーケティング論」では、現在社会の経済状況や企業活動を諸資料から評価する技能を身につけさせるとともに、国内外の企業活動を理解し、諸課題に多面的・多角的に考察・公正に判断する力を養わせる。「自由と正義の倫理学」では、人間の生命に即して自由と正義をめぐるさまざまな倫理的問題を学ばせ、論理的に議論できる力を養わせる。「科学と技術の哲学」では、科学の方法論・特徴を学ばせ、「科学とは何か」について自ら考えられるようにする。</p>
2年次	3セメスター	<p>3セメスターは、学部固有科目の履修を通じ、他者との交流のみならず国際化にも対応できるコミュニケーション能力を身につけ、学校という組織の一員に必要な関係能力や役割意識を備え、集団や組織を運営するためのリーダーシップやチームワークに基づくマネジメント能力を身につけさせる。特に、3セメスターから開講される「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」を3セメスターから開講する。「教育原論」では、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を学び、現在の学校教育のあり方を自身の課題として追及するための資質を形成させる。「教職入門」では、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容、教職への道を理解させ、教職を受講者自身の進路として真摯に捉え、彼らの将来設計の重要な契機とさせる。</p> <p>「教科科目」に関しては、「法律学(国際法を含む)、政治学(国際政治を含む)」として「国際法」「国際関係論」を開講し、国際社会の仕組みや国際法を理解させ、市民社会を構成する社会人として諸課題の解決に主体的に関わる態度を養わせるとともに論理的思考力を身につけさせる。「社会学、経済学(国際経済を含む)」として「ミクロ経済学」を開講し、現在社会の経済状況、企業活動を諸資料から調べ評価する技能を身につけるとともに、企業行動や市場機構を理解させ、諸課題に多面的・多角的に考察したり公正に判断できる力を養わせる。</p>
	4セメスター	<p>4セメスターも学部固有科目の履修を通じ、他者と交流できるコミュニケーション能力、および国際化にも対応したコミュニケーション能力を身につけ、学校という組織の一員として必要な関係能力や役割意識を備え、集団や組織を運営するためのリーダーシップやチームワークに基づくマネジメント能力を身につけることを目標とする。特に「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」に関して、「学習・発達論」、「教育課程論」及び「教育の制度と経営」を開講する。「学習・発達論」では、乳幼児期から青年期における発達や学習の基礎知識について心理学の観点から学ばせ、教育的意義や教育者としてより良い教育実践を行うための見方や考え方を理解させる。「教育課程論」では、教育課程の「本質」を理解させ、模擬的な教育課程の編成を通して、有意義な教育課程の編成技能を養わせる。「教育の制度と経営」では、日本の教育行政、学制、教育課程、教職などを歴史的な形成過程や海外との比較を交えて理解させる。併せて日本の教育制度の運用を理解させる。</p> <p>「教科専門科目」に関しては、「法律学(国際法を含む)、政治学(国際政治を含む)」として「国際政治史」「安全保障論」「行政管理論」を開講し、国際関係論の諸学説や安全保障をめぐる基本概念を理解させたり、生活に登場する行政の管理を多面的・多角的に考察できる力を養わせる。</p>

履修年次		到達目標
年次	時期	
3年次	5セメスター	<p>5セメスターは学部固有科目の履修を通じ、主体的に問題を発見・整理した上で、適切な解決方法を提案する能力を身につけることを目標とする。特に「総合政策プロジェクト研究」において上記の能力の涵養が期待される。</p> <p>「教職科目」に関して「教育方法論」、「特別支援教育」及び「情報通信技術の活用」を開講する。「教育方法論」で教育の方法と技術を学ばせ、教科に共通する授業設計の基本原則を学ぶとともに、効果的な授業の技法を修得させる。「情報通信技術の活用」では、必要な教育情報機器及び教材の活用を修得させる。また「特別支援教育」では、多様化し重度化する障害のある幼児・児童・生徒の実態を理解させるとともに、特別支援教育が個別のニーズに対応する教育形態と概念であり、障害者も健常者も共に同時代を生きる「人」としての共感的な理解を学ばせる。</p> <p>「教科科目」に関して、「社会学、経済学(国際経済を含む)」として「経済政策と日本経済」「マーケティング戦略論」を開講し、日本経済を諸資料から理解する技能を身につけさせるとともに、国内外の企業の問題解決のためのマーケティング戦略の考え方や手法を理解させる。</p>
	6セメスター	<p>6セメスターは学部固有科目の履修を通じ、主体的に問題を発見・整理した上で、適切な解決方法を提案する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関しては、「教育相談(カウンセリングを含む)」でカウンセリング理解と併せて教育相談の実態と方法を学ばせ、多様な問題を抱える現代の児童・生徒の実態を理解させ、問題に応じてどのような対応の選択肢があるかを学修させる。「総合的な学習の時間の指導」では、各教科を横断する総合的な学びや特別活動と結びついた体験的・探求的な学習の重要性を理解させる。「特別活動の方法」では、学校教育活動全体における特別活動の意義や内容及びその指導のあり方を理解させる。通年の「社会公民科教育法」では、積極的に指導案づくりや模擬授業の機会を与えることにより、適切に授業目標を定め、授業設計ができるようにさせる。</p> <p>「教科科目」に関しては、「社会学、経済学(国際経済を含む)」として「財政学」を開講し、政府の役割や公共財の最適供給、税制などについて考察できる力を養わせる。</p>
4年次	7セメスター	<p>7セメスターは教職課程を設置する学士課程の最終年度として、より良い教育実践を実現するための向上心と、より高い自分自身を追及する自己研鑽への態度を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関しては、「生徒指導・進路指導の方法」で実践事例からいじめや荒れを認識させ、家庭及び発育の課題や現代社会の有り様を理解させる。その上で生徒理解に基づく進路指導及びキャリア形成のあり方を理解させる。「教育実習Ⅱ」では、十分な事前指導の下に教育現場で授業実践の基本的力量を身につけるとともに、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解させ、教職への意欲を確実に持たせる。</p>
	8セメスター	<p>8セメスターは7セメスターに続き教職課程を設置する学士課程の最終年度として、より良い教育実践を実現するための向上心と、より高い自分自身を追及する自己研鑽への態度を身につけることを目標とする。</p> <p>「教職科目」に関しては、「教育実習Ⅱ」では、十分な事前指導の下に教育現場で授業実践の基本的力量を身につけるとともに、生徒観を磨かせ、教師という職業の実態を理解させ、教職への意欲を確実に持たせる。「教育実践演習(中・高)」では、教師への確実な準備機会として履修生各自のこれまでの学習内容の修得を振り返り、不足している側面を補い、学修成果を実践に結びつける演習活動を通して、実践的指導力の基礎を固めさせる。</p>